

8 お子さんと話される時のヒント

(1) 短い時間でよいので、じっくりと、お話しを聞いてあげる時間を作りましょう

- 例) ・園や学校から帰った後のおやつの時間
- ・お風呂の時間
- ・夜、寝かしつける時間

毎日時間を取るのが難しい場合は、週に何回と決めてもよいでしょう。
可能であれば、お子さんと2人きりの時間が作れるとなおよいでしょう。

(2) 「ゆっくり、ゆったり」と話しかけるように心がけましょう

- ・お子さんの話す速さよりも速くならないようにしましょう。
- ・お子さんの話が終わった後、少し間を空けて話しはじめましょう。
- ・お子さんが話している時に、お子さんの顔を見たり、うなづきやあいづちをしたりしましょう。

(3) 必要に応じて、「そっと、やわらかく」話す方法のモデルを示しましょう

- ・力を入れずに、「そっと、やわらかく」口やのどを動かして話すことで、お子さんに吃音の出にくい話し方のモデルを示すことができます。
- ・特に、お子さんがのどや口、体に力を入れて話している時は、「そっと、やわらかく」話し方のモデルを示しましょう。
- ・お子さんが話しにくそうにしていることばを、「○○だね」と「そっと、やわらかく」話し方で言い直して返すことも効果的です。なお、この時に、お子さんにそのことばをもう一度言い直させるのは控えましょう。

例) お子さん 「(つまりながら) ……ド…ッジボールしたよ」

保護者の方 「そうなんだ。(そっと、やわらかく) ドオーツジボールしたんだ。楽しかった？」

ご兄弟がいらっしゃる時は……

- ・基本的には、吃音のあるお子さんと同じように接します。ただし、お兄さん、お姉さんには、吃音があるお子さんに特別な対応が必要なことを説明し、理解してもらってもよいでしょう。
- ・年齢にもよりますが、「順番」に話すのをルール化することも効果的です。